

## SPARC Japan セミナー2023

「即時OAに備えて:論文・データを「つかってもらう」ためのライセンス再入門」

J-STAGE Data の  
現状とライセンスについて

久保田 壮一

(科学技術振興機構)

## 講演要旨



令和元年度に運用を開始した J-STAGE Data は令和 5 年 10 月現在、37 誌から、600 弱のデータが公開されている。J-STAGE 記事に関連したデータリポジトリであり、J-STAGE 記事とは別の DOI、ライセンスを付して公開することが可能である。現在公開されているデータのライセンスの多くは CC BY であるがライセンスのポリシーはジャーナル発行機関が決定している。J-STAGE Data の現状とそのライセンスについて報告する。



## 久保田 壮一

国立研究開発法人科学技術振興機構情報基盤事業部研究成果情報グループ調査役。2001年に科学技術振興事業団に入職。現在、科学技術振興機構情報基盤事業部にて、J-STAGE、J-STAGE Data および Jxiv の運營業務に従事。

私は、電子ジャーナルプラットフォームである J-STAGE、その J-STAGE に掲載された論文にひも付いたデータのリポジトリである J-STAGE Data、そしてプレプリントサーバーの Jxiv を担当する部署に所属しています。J-STAGE Data は現在利用促進を図っているところですが、本日はどのように使われているか、現状とライセンスを中心にをご紹介します。

## J-STAGE 事業と J-STAGE Data の概要

J-STAGE 事業は 1999 年にサービスを開始し、2023 年 11 月現在約 3,900 誌のジャーナル、約 560 万の記事を公開しています。国内の学術誌の情報発信のために運営しており、オープンアクセスの推進を目指し、日本の学協会における科学技術刊行物の発行を支援して

います。

J-STAGE Data は、J-STAGE 掲載の研究論文に関連するデータを公開するデータリポジトリとして、2020 年 3 月にサービスを開始しました (図 1)。オープンサイエンスの世界的な潮流があったことに加え、データの利用だけではなく、その公開は、研究公正的な面でも

J-STAGE Data <https://jstagedata.jst.go.jp/> 2020年開始

- J-STAGE 掲載論文に関連するデータを登録・公開するデータリポジトリ
- データに、論文とは独立のメタデータ、DOI (JaLC経由)、CCライセンスを付与
- すべてのデータはオープンアクセスで公開、ダウンロードが可能

39誌、596データを公開中 (2023/11/18)

Powered by Figshare

検索窓

サムネイルをクリックすると、データページへ

閲覧・ダウンロード状況

新着データのサムネイル

Japan Science and Technology Agency 科学技術振興機構

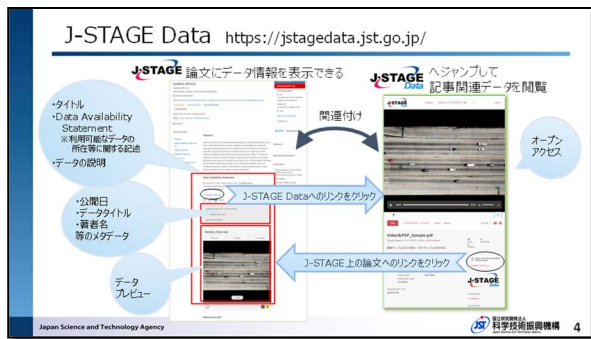
(図 1)

再現性や検証の観点からも重要であると考えられたことが背景にあります。現在 39 誌、600 弱のデータを、Figshare というプラットフォームをカスタマイズし提供しています。

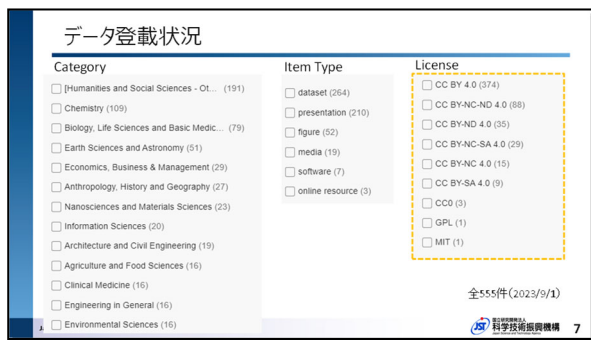
J-STAGE と J-STAGE Data は相互リンクが貼られています (図 2)。また、掲載データには論文から独立したタイトルや DOI を付けること、データに二次利用のライセンスを付けることもできます。

### J-STAGE Data へのデータ掲載状況

図 3 はデータの掲載状況です。2023 年 9 月のデータ



(図 2)



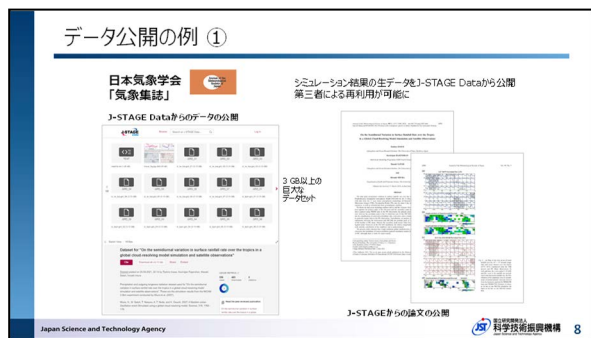
(図 3)

ですが、J-STAGE Data に付与されたライセンスのうち、CC BY で公開されているデータは 374 件でした。CC ライセンス以外にもさまざまなライセンスで公開されており、GPL と MIT はソフトウェアのライセンスとして使われているものです。J-STAGE Data の中で一番多いのは掲載された記事に関するデータセットですが、それだけではなく、解析プログラムや発表資料、フィギュア、ソフトウェアなども公開されています。図 4 のようにさまざまなデータセット等が公開されており、図 5 のようにアンケートの結果も再利用可能な形で公開されています。

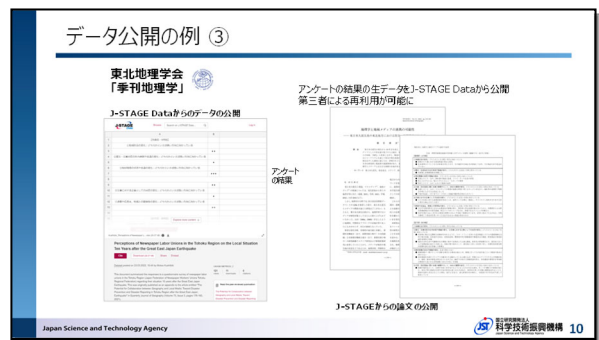
利用状況としては、月間閲覧数が約 1 万 6,000 件、月間ダウンロード数が約 4,000 件です。アクセス元は日本と米国が多くなっています。また、外部サービスの CiNii Research、Dimensions、Google Dataset Search などの連携により、J-STAGE Data に掲載されたデータが検索できるようになっています (図 6)。

### J-STAGE Data の目指すところ

J-STAGE Data はデータポリシーを策定し、どのよう



(図 4)



(図 5)



(図 6)

なデータをどのように載せるべきか、取り扱いに関する基本方針を示しています。これは研究データ利活用協議会（RDUF）の研究データライセンス小委員会による「研究データの公開・利用条件指定ガイドライン ver.1.0」を参考に定めたものです。その主な内容としては、データの公開・非公開、留意すべきデータ公開の制約があります。また、研究データの中には、内容によっては一定期間公開しない方がよい種類もありますので、エンバーゴも設定できるようにしています。

J-STAGE Data は、J-STAGE 登録誌の研究論文の根拠データを公開する場です。J-STAGE Data で公開されるデータは論文にひも付きますので、ジャーナルの編集委員会で査読・確認されたものが公開されていることになります。研究コミュニティで確立されたデータリポジトリがある場合は、そちらで公開し、J-STAGE の記事をひも付けることもできますので、必ずしも J-STAGE Data を利用しなければならないということではありません。また、J-STAGE には元々電子付録という機能があり、論文に付随して音声などのさまざまなデータを添付することができます。電子付録とのすみ分けですが、論文と独立してデータにタイトルとライセンスを付けて流通させたい場合には J-STAGE Data で公開することが望ましいと考えております。ゆくゆくは研究データ自体が評価されることにつながればよいと考えております。

### J-STAGE Data 掲載に際して

J-STAGE Data に掲載するメリットは、メタデータ、DOI、CC ライセンスを、論文とは独立して付与でき

ることにあります。論文同様、データについても査読を経て公開する流れとなっています。アップロードする際には、図7のようなメタデータを付けて公開することになります。

登録する研究データのライセンスについては、J-STAGE Data では定めておらず、発行元である発行機関や学協会が適切に選択して公開するようご案内しております。このライセンスにするように、と定めているところ、どのライセンスにするかは定めておらずこの中から選択するように、と投稿規約で定めているところ、特にポリシーを定めていないところなど、現状ではさまざまです。どのようなライセンスを付けたらよいのかという質問も頂きますので、その場合にはアドバイス等を行っているケースもございます。

### 今後の展望

J-STAGE Data については、現在、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）の指定するメタデータ共通項目に対応し、NII 研究データ基盤（NII RDC: NII Research Data Cloud）にメタデータを連携させる準備

**共通メタデータ項目への対応**

・JALOSシステムのメタデータをCSTIの指定するメタデータ共通項目に対応し、研究データ基盤システム（NII RDC）と連携させることで、研究データ収集・利活用を促進する。

**実施内容**

- J-STAGE DataのメタデータをCSTIの指定するメタデータ共通項目に対応するよう拡張。
- 当該メタデータを表示可能とするともに、JALOSシステムでのDOI登録時にメタデータを提供。
- JALOSシステムのDOIメタデータをCSTIの指定するメタデータ共通項目に対応するよう拡張。
- JALOSシステムからNII RDCへのメタデータを提供可能にするよう情報提供機能を改善。

**効果**

- J-STAGEの登録論文のエビデンスデータとしてJ-STAGE Dataに登録された研究データがNII RDCを経由して流通することで、良質な研究データの利活用が拡大。
- DOI登録時にメタデータを入力することで、そのメタデータがNII RDCに提供されるため、研究者の負担軽減に繋がる。
- JALOSシステムおよびNII RDCへの研究データ登録が促進されることで、我が国における研究データの管理・利活用が促進される。

(図8)

項目名	必須	文字制限など	入力する内容・注意点など
Title	*	半角25文字以上5000文字以下	【英語】(必須)タイトル(1行)
Item type	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	【英語】(必須)データの種別として書きこぶ(1行)
Authors	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	【英語】(必須)著者名(1行)
Categories	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	データについて関連する1つ以上のキーワード
Keywords	*	英数字のみ(半角)100文字以内(1行)	【英語】(必須)キーワード(1行)
Description	*	半角25文字以上5000文字以下	【英語】(必須)データに関する説明(1行)
Readlog	*	漢字のみ(半角)255文字以下	データについて関連する1つ以上のキーワード
Reference	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	データについて関連するURL(1行)
License	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	データについて関連するURL(1行)
Manuscript title	*	半角25文字以上5000文字以下	データに関する論文のタイトル(1行)
Manuscript number	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用
Article DOI	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用
Corresponding author email address	*	J-STAGE Dataのメタデータにのみ適用	データに関するお問い合わせ先(1行)
Title (in Japanese)	*	半角25文字以上5000文字以下	【日本語】(必須)タイトル(1行)
Description (in Japanese)	*	半角25文字以上5000文字以下	【日本語】(必須)データに関する説明(1行)
Manuscript title (in Japanese)	*	半角25文字以上5000文字以下	【日本語】(必須)論文のタイトル(1行)
Authors (in Japanese)	*	半角25文字以上5000文字以下	【日本語】(必須)著者名(1行)
Copyright	*	半角25文字以上5000文字以下	【英語】(必須)データの著作権表示(1行)

(図7)

**参考資料**

- ▶ J-STAGE Data リソース  
[https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub\\_release\\_jstage-data.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_release_jstage-data.pdf)
- ▶ J-STAGE 各種サービス機能 データリポジトリ  
<https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/jstageServices/TABS-char/ja>
- ▶ J-STAGE ニュース  
No. 46 「J-STAGE Data」リリースから18ヶ月  
<https://doi.org/10.24344/jstage/news.2021.46.1>  
No. 48 「J-STAGE Data」での研究データ公開を推進するための取り組み  
<https://doi.org/10.24344/jstage/news.2022.48.1>  
No. 50 「J-STAGE Data」を有効に活用した研究データ公開の事例  
<https://doi.org/10.24344/jstage/news.2022.50.2>  
No. 51 「J-STAGE Data」エディタを初めて開催してみた  
<https://doi.org/10.24344/jstage/news.2023.51.2>

ご関心のある方は、ぜひお問い合わせください  
data-contact@jstage.jst.go.jp

(図9)

を行っているところです（図8）。図9は参考資料となります。連携によりわが国における研究データの管理・利活用の推進を目指しています。